

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環境厚生常任委員会		会議場所 第1委員会室 担当職員 山末
日 時	平成31年3月8日(金曜日)		開 議 午前 10 時 00 分 閉 議 午後 0 時 32 分
出席委員	◎富谷 ○並河 長澤 大塚 小松 平本 西口 (欠席:三宅)		
理事者 出席者	【市立病院】 玉井病院事業管理者、佐々木管理部長 [病院総務課] 松村課長、山下管理係長 [医事課] 小笹課長 [経営企画室] 竹内室長 【環境市民部】 塩尻部長 [環境政策課] 西田課長、山内施設整備・保全担当課長、亀井施設整備係長 [市民課] 竹村課長 [保険医療課] 荻野課長、山内副課長、藤谷国保給付係長、岩佐国保料係長 【健康福祉部】 栗林部長、吉田子育て支援担当部長 [地域福祉課] 佐々木課長、的場福祉総務係長 [障害福祉課] 俣野課長、吉田障害者給付係長 [高齢福祉課] 高橋課長、山口高齢者係長 [健康増進課] 野々村課長、入江健康管理係長 [こども未来課] 森岡課長 [保育課] 阿久根課長		
事務局	山末主事		
傍聴者	市民 0名	報道関係者 0名	議員0名

会 議 の 概 要

1 開 議

2 事務局日程説明

3 議案審査

[理事者入室] 市立病院

(1) 第69号議案 平成30年度亀岡市病院事業会計補正予算(第3号)

<病院事業管理者>

(概要説明)

<病院総務課長>

(資料に基づき説明)

～10:16

[質疑]

<小松委員>

診療材料費の増加ということだが、具体的な内容は。

<病院事業管理者>

整形外科の場合、手術において、金属のプレート等の固定材料や脊椎に入れるピン、椎間板に入れるチタン等が全体のボリュームに対して3割程度を占める。それに加えて手術台やレントゲンの関係の更新を3月に予定しており、そういうものも少し含まれるが、多くは患者の体内に入れ込む材料と理解いただければと思う。

<平本委員>

整形外科の入院収益が増えているということだが、入院患者はどれぐらい増えたのか。

<病院事業管理者>

100床のうち、もともとは整形外科が25～30パーセント程度であったが、現時点では40パーセント台後半になっている。

<平本委員>

新たに来られた先生を目当てに来る亀岡市外からの患者は増えているのか。

<病院事業管理者>

そうである。

<並河副委員長>

整形外科の患者数が増えたということだが、外来も含めて全体的な推移はどのように変わってきているのか。

<病院事業管理者>

外来の数と入院の数は並行の関係ではない。全体の数ということではそれほど変わりが無いという理解が正しいと思う。

<並河副委員長>

診療代の未収はあるのか。また、未収への対応はどのように行っているのか。

<病院事業管理者>

資料の中に出てくる未収金とは、保険が2～3カ月遅れて入ってくる分の未収金である。取り立てるあてがないという意味の未収の患者は他の病院と比べて多くはない。外傷を中心に扱っている病院で、たまたま近くを通過していた人が事故に遭うなどして救急で搬入され、その後、遠くに帰ったりすると未収に対する対応が難しくなることがあるが、この病院は、地域の人を診るということなので、そういうことは生じにくい環境にある。

<西口委員>

スーパードクターの導入により設備を充実させるという予算だと思うが、これによる成果はどの程度になると考えているのか。また、今後さらに充実していきたいと考えているのか。

<病院事業管理者>

若い先生を増やすことで循環していく形が取れるようになっていくことにより、安定した形の経営を維持できるということになる。1人の先生に依存するという形は継続していくのが難しい。そのため、大学との交流を継続するということが主眼にある。先ほど、機材の購入のことを少し述べたが、実際のところは更新になっている。魅力ある病院にしていくためにはそういうところへの投資も必要ではないかと考えている。それにより若い先生に来てもらい、病院がより活性化するというような方向性で考えている。また、あまり偏り過ぎるのではなく基本となる内科、外科、消化器外科の充実を考えていくべきだと思っている。

<並河副委員長>

現在、医師は十分に確保できているのか。

<病院事業管理者>

若い医者が領域ごとに均等に生まれてくるとよいが、あまり選択されない領域があると取り合いにならざるを得ない。病院全体としては一概に十分であるとは言えない。実際のところ、麻酔科の先生を今後どのように充実していくのかということについて、多くの病院で困っている状況である。麻酔科を選択する若い先生は増える傾向にあるが、それは5年、10年先の話なので、この数年間における麻酔科の充実喫緊の問題点だと考えている。

<小松委員>

昨年、京都中部総合医療センターで椎間板ヘルニアの手術を受けたのだが、そこは診察の予約をするのに1カ月、手術をするのにまた1カ月かかった。市立病院の先生はまだ余力がある状態なのか。

<病院事業管理者>

緊急性を要するものは別の話だが、実際のところは、2、3週間先～1カ月半先ということになってくる。緊急性を要する場合に24時間対応できる病院の体制をどのようにつくるのかということになる。医者だけではなく看護師や麻酔科の先生等が対応していかなければならない。病院のボリュームが小さいと看護師の数が少なく、夜勤や当直の問題も含めて頑張っていた中で時間外の手術にも対応しようとするには多くのスタッフを抱え込まなければならない。採算性の問題も出てくるので、受け入れることが可能かどうかというシンプルなものでは解決できないところがあり、難しい部分がある。

<富谷委員長>

整形外科の先生の充実や糖尿病療養指導士の増員等、いろいろ工夫いただいている中で、外来への影響はあるのか。

<病院事業管理者>

口コミ等によって病院全体の亀岡市における認知度を高める形になっている。そういう意味では健康講座も含めてどうアピールしていくのか。昔からある手法だが、そういう形で認知度を上げていく努力が必要ではないかと考えている。また、午後を中心に朝9時から午後5時までの間の医療をどのように充実した形で提供していくのかということが今後の課題と考えている。

[理事者退室]

～10:37

[理事者入室] 環境市民部

(1) 第60号議案 平成30年度亀岡市一般会計補正予算(第8号)所管分

<環境市民部長>

(概要説明)

<各課長>

(資料に基づき説明)

～10:58

[質議]

<小松委員>

P 4 3、ごみ減量・資源化等推進事業経費について、ごみの分別が進み、資源化が進んだために費用が増えるという説明だったが、どういうことなのか。

<環境クリーン推進課長>

プラスチック容器包装を製品化する作業があり、それを委託で行っているため、量が増えれば委託料が増額するということである。

<西口委員>

P 3 1、補正の内容からは外れるが、アユモドキの調査について、今年も冬場の調査を実施するのか。

<環境政策課長>

曾我谷川等で、外来魚調査等をはじめ、3月上旬まで調査を行う。今後も調査を継続していきたい。

<西口委員>

プラスチックごみの問題について、今回、昨年のG 7で日本とアメリカだけが海洋プラスチック憲章に署名していないということがあり、亀岡市と亀岡市議会が共同でかめおかプラスチックごみゼロ宣言を行った以上、政府に対して署名を求めるような声を上げるべきだと思う。3月議会で政府に対して署名することを求める意見書を提案しようと思っている。常任委員会として前に進めていくよう提案していきたいと思っている。

<環境市民部長>

宣言を共に行ったので、共に進めていきたいと思う。

<大塚委員>

説明の中で事業費の確定による補助金の減額という言葉が出てくるが、これはどういう意味か。

<環境市民部長>

事業によって異なるが、実際にかかった費用により補助金が変わってくるためである。

<並河副委員長>

P 4 1、火葬場について、今後の方向性は。

<環境市民部長>

審議会からの答申を昨年4月にいただいた。その答申をもとに基本計画の策定を進めている。それが出来上がれば、亀岡市の考え方として、環境厚生常任委員会に提案し、市民にも見ていただき、パブリックコメントを行って順次進めていくことになる。

<並河副委員長>

方向性としては余部町丸山が最適であるという形で進めていくということか。

<環境市民部長>

審議会からは余部町丸山が最適であるという答申をいただいている。亀岡市としては、それを検証しているところであり、道路の問題等を全て網羅した上で、余部町丸山に建設するのかどうかについて、年度内で構想を立てて発表したいと考えている。

<並河副委員長>

1年程度の準備期間を設けて進めるということか。

<環境市民部長>

進捗状況によってどのように進めていくのかが決まってくると思う。火葬需要が伸

びており、現在の火葬場の耐用年数も近いので、担当としては早く進めていきたいと考えている。

～11:09

(2) 第61号議案 平成30年度亀岡市国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)

<環境市民部長>

(概要説明)

<保険医療課長>

(資料に基づき説明)

～11:16

[質疑]

<小松委員>

P16、予備費について、想定外の支出に対してという説明だったが、どういったことか。

<保険医療課長>

医療費の急増に伴う財源の確保である。現在のところは予算内に収まる予定だが、インフルエンザの流行等、想定外の支出に備えるものである。

<並河副委員長>

P12、特定健康診査等事業費について、かなり大きな減額だが、受ける人が少なかった要因は。

<保険医療課長>

当初予算の段階では、1万6,536人のうち40パーセントが受診されるという目標で6614人、7,423万3千円の予算を組んでいた。しかし、12月末で30.3パーセントの受診率であった。10月20日までが受診の期限であり、この時点でほぼ確定したため、その差額を補正するものである。今年受診率が低かったのは、災害の多発や猛暑の影響によるものが大きかったのではないかと考えている。

<並河副委員長>

昨年は特に受診者数が少なかったということか。

<保険医療課長>

そうである。目標を達成できるよう努めていきたい。

<西口委員>

市民からよく脳ドックを受けたいという話を聞くが、何年に1回受けられるのか。

<保険医療課長>

5年に1回である。

<西口委員>

本来は1年に1回ぐらいは受けなければならないのではないかとと思うのだが、それについてはどうか。

<保険医療課長>

脳ドックについては、国民健康保険運営協議会の中で先生から有効性を問われた。見直しを行って5年に1回とした経過がある。

<西口委員>

5年に1回で大丈夫なのか。年数は縮められないのか。

<保険医療課長>

協議会の中で協議していきたい。

<富谷委員長>

脳ドックは人気があると思う。幅広く受けてもらうという視点から5年に1回としているのか。

<保険医療課長>

有効性の観点から5年となっている。

<富谷委員長>

定員を割れることはないのか。

<保険医療課長>

定員内におさまっている。

<西口委員>

1回受けると5年間受けられないのか。

<保険医療課長>

そうである。

<長澤委員>

自己負担で行うのであればそれよりも短い期間で受けられるのか。

<保険医療課長>

国民健康保険の制度を利用して受けられるのが5年である。脳ドックは脳だけだが、人間ドックは全身の状態を診るということで、これについては柔軟な対応をしております、毎年受けることができる。

～11：26

(3) 第65号議案 平成30年度後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第1号)

<環境市民部長>

(概要説明)

<保険医療課長>

(資料に基づき説明)

[質疑なし]

[理事者退室]

～11：30

[理事者入室] 健康福祉部

(1) 第60号議案 平成30年度亀岡市一般会計補正予算(第8号) 所管分

<健康福祉部長>

(概要説明)

<各課長>

(資料に基づき説明)

～12：03

[質疑]

<平本委員>

P 3 7、家庭相談員等設置経費について、相談員が5人から4人に減っているというのだが、補充はしていないのか。

<こども未来課長>

現在も継続して募集している。3月中に面談等を行い、採用に向けて取組んでいきたい。

<平本委員>

5人でも厳しい状況の中で4人ということでは、1人の負担がかなり大きくなると懸念するが、それについてはどうか。

<こども未来課長>

1人の相談員に偏るようなことがあってはならないと考えているので、課を挙げて、正職員も入って負担を軽減するよう取組んでいる。

<平本委員>

機構改革もあり、負担が増すという懸念もあるので、早く補充できるように検討願う。

<並河副委員長>

P 3 3、くらしの資金貸付金について、予算の半分程度しか執行されていないと思うが、その要因は。

<地域福祉課長>

平成30年度は夏季で11件、冬季で13件の貸付けがあり、いずれも見込みより少なかった。我々としては、生活保護費も含めて全体的に減っているという印象を受けている。また、今年度は夏季と冬季で合計24件の貸付けを行ったが、その約半分である14人の人は、以前にも貸付けを受け、返済し、再び貸付けを希望された人であり、こういった人が半分程度いるという状況も変わっていない。明確に要因を分析できるものではないが、社会経済情勢の改善が要因であるとも考えている。

<並河副委員長>

今後、通年化や貸付金額を10万円に戻すことについて配慮いただきたい。要望である。敬老事業も減額されているが、事業に参加される人が減っているのか。

<健康福祉部長>

これについては、1人5,000円であったものを半額の2,500円に引き下げた経過がある。それぞれの自治会で検討いただき、各区で行うところも出てきた。それにより、出席率が一気に上がったところがあり、それを見て平成30年度予算は出席率を高め想定して予算立てをしていたが、区で行っていたところが自治会に戻ったりしたところもあり、参加率が変わらなかったため残額が生じた。特に大きな変動はない。

<富谷委員長>

P 3 5、障害者福祉サービス事業経費について、喀痰の吸引ができる事業所は市内に何カ所あるのか。

<障害福祉課長>

花ノ木医療センターのみである。

<西口委員>

全体的に減額が多いが、あまり減額が多いと市民にきちんと活用いただいているのかという思いがある。制度を知らないということがあってはならないので、広報等

を充実して皆が利用できるように努力願いたい。

<健康福祉部長>

制度が細かくなっている。特に障害福祉の分野の制度が新たにできるものが増えてくる。なかなか他の課の職員では分からないということもあるので、漏れのないように、相談に来られた場合は、自分の課の制度だけではなく他の課の制度も知っておく、わからなければその課に問い合わせるということで漏れのないようにしていきたいと思う。

～12:12

(2) 第62号議案 平成30年度亀岡市休日診療事業特別会計補正予算(第1号)

<健康増進課長>

(資料に基づき説明)

[質疑なし]

～12:14

(3) 第64号議案 平成30年度亀岡市介護保険事業特別会計補正予算(第2号)

<高齢福祉課長>

(資料に基づき説明)

～12:23

[質疑]

<大塚委員>

P12、介護給付費のところ、居宅介護サービスの給付費がかなり減っているが、どういうことか。

<高齢福祉課長>

第7期のプランに掲げている計画値で予算を計上していたが、そこまで実績が伸びなかった。

<大塚議員>

利用者が減ったということか。

<健康福祉部長>

居宅介護については、亀岡市では伸びが少ない。また、総合事業が展開されるので、その関係もあるのではないかと考えているが、亀岡市の傾向としては居宅介護の伸びが少なく、施設介護の伸びが大きいということがあるため、今後も包括ケアを進展させていかなければ居宅介護が進んでいかないのではないかと考えている。

[理事者退室]

～12:25

4 討論・採決

[討論なし]

[採決]

第60号議案	挙手	全員	可決
第61号議案	挙手	全員	可決
第62号議案	挙手	全員	可決
第64号議案	挙手	全員	可決
第65号議案	挙手	全員	可決
第69号議案	挙手	全員	可決

[指摘要望事項なし]

～12:31

5 その他

<富谷委員長>

今回は3月11日午前10時から委員長報告の確認を行う。午後からは条例の審査等を行う。

<事務局主事>

3月11日の午後2時46分から東日本大震災に係る黙祷を全庁的に行うこととなっている。委員会中であれば委員会を一時中断して黙祷を行うことになるので御承知おき願う。

散会 ～12:32